



## 「美術鑑賞」(その56)

2018年3月25日(日)～26日(月)

# はるひ 春日、 耀く美術館をたずねて ―水上、糸魚川、富山

例年より早くに桜の開花宣言のあった東京を出発して、群馬県の水上、新潟県の糸魚川を経て富山県富山市へと、2日間で4つの美術館を訪れました。いずれの美術館も素晴らしいコレクションと個性的な建物を有し、独特な耀きを放っていました。世界最速の芸術鑑賞、「現美新幹線」へも乗車しました。講師にお迎えしたのは美術研究家沼辺信一さんです。

- 天一美術館
- 谷村美術館
- 富山県美術館
- 富山市ガラス美術館

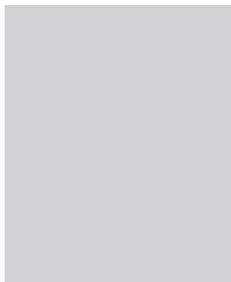
### 天一美術館

「銀座天二」の創業者矢吹勇雄氏がコレクションを展示するために、別荘を所有していた縁で水上の地に建てた美術館。岸田劉生「麗子像」を核に、梅原龍三郎や熊谷守一、ルノワールやマチスなどの名品が収められています。

学芸員片野さんが「劉生は38歳で亡くなるまで、自分の娘「麗子」をひたすら描き続けたことで知られる大正時代に活躍した画家です。「麗子像」は斜め前からとらえたものが多いのですが、当館所蔵の正面向きは非常に珍しいものです。完成してからも4回にわたって加筆されており、劉生が特に大切にしていた作品です」とお話ししてくださいました。



谷川岳を背に建つ和風モダンな建物は建築家吉村順三氏の遺作。大きなガラス窓から見る「切り取られた谷川の自然」も素晴らしい



岸田劉生「麗子像」  
天一美術館所蔵

### 谷村美術館

彫刻家澤田政廣氏の作品を展示するために、建築家村野藤吾氏によって設計された美術館。6つある展示室の全てが、展示される仏像彫刻に合わせて作られています。「展示作品が決まっています、それに合わせて建物をつくる」という美術館の理想がここにありました」とは沼辺講師の弁です。

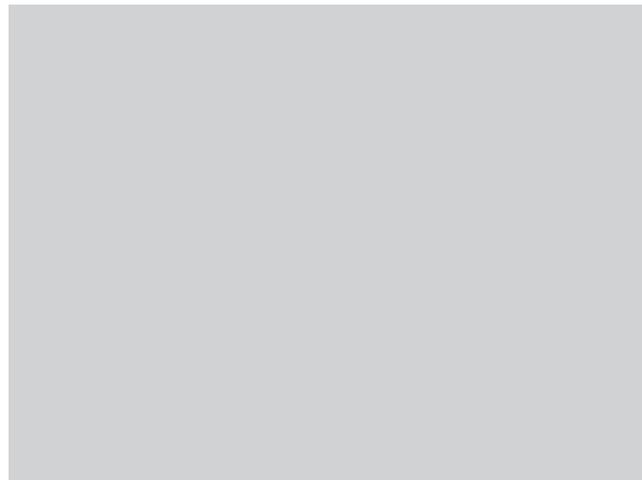


背景はシルクロード砂漠の遺跡に見立てて設計された建物。館内は石窟調で、展示空間の作品は天候や時刻によって違った表情をみせる

### 富山県美術館

立山連峰の眺望を楽しめる空間を生かし、人々が気軽に集える場所に「人々とアートやデザインをつなぐ美術館を」と昨年8月に開館したばかりの美術館。ギャラリーやアトリエも併設され、遊具で遊べる屋上庭園「オノマトベの屋上」は多くの家族連れで賑わっています。

沼辺講師が「今回特に見られたらいいなと思っっているのはピカソ19歳の作品。バルセロナ時代のパステル画で、すごくきれいな、皆さんの知っているピカソとは全く違う、素直な絵です。運良く見ることができたなら、若い、才能ある絵描きの絵とすぐに分かります。よくぞ日本にあってくれましたと感心します(作品は下)」と言われた作品をコレクション展示の中に見つけることができました。



パブロ・ピカソ「闘牛場の入口」1900年 富山県美術館所蔵  
©2018-Succession Pablo Picasso-BCF(JAPAN)

# 2018年奨学金授与式開催

## ◆音楽奨学生 ◆彫刻奨学生

### 富山市ガラス美術館

現代ガラスアートが持つ魅力と未来に向けての可能性を富山から発信していこうと、「ガラスの街とま」を目指したまちづくりの集大成として一昨年に開館した美術館。建築家隈研吾氏が設計を手がけました。図書館やカフェ、ミュージアムショップと共に複合施設「TOYAMAキラリ」内にあります。



富山県産材のルーバーを活用した温もりのある空間はあたかも森の中にいるよう

### 音楽奨学生 奨学金授与式

2018年4月5日、愛知県立芸術大学において、第10回音楽奨学生奨学金授与式が、入学式終了後の音楽学部新入生ガイダンス会場で行われました。

この奨学金制度は、当財団が芸術振興の一助として、同大学の学生を対象として2009年より実施しています。多くの学生の中から奨学生に選ば

れた3名に、市橋淳平常務理事から奨学金が授与されました。奨学生たちは、新入生が見つめる中、福本泰之音楽学部長からインタビューを受け、選ばれた喜びとこれからの抱負を熱く語りました。今回の3名を加えると奨学生は31名になりました。

将来、素晴らしい音楽家が生まれることでしょう。



音楽学部新入生ガイダンス会場



福本泰之 音楽学部長のインタビューに答える奨学生のみなさん



深井 善子さん (サクソ)



鵜殿 里菜さん (ピアノ)



倉地 佑奈さん (作曲)

### 現美新幹線

「世界最速の芸術鑑賞」とは、新幹線で移動しながら現代アートを鑑賞するというユニークな演出。アーティストがこの列車のために制作した作品が、11号車から16号車の各車両に展示されています。



11号車 松本 尚



14号車 石川 直樹

### 彫刻奨学生 奨学金授与式

2018年6月22日、財団ホールにおいて、第34回彫刻奨学生奨学金授与式が行われました。

この奨学金制度は、1985年から実施されており、今回の5名を加えると、これまでに124名が奨学生に選ばれています。奨学生の作品は左記のとおりです。今後の作品も楽しみです。



「島に這う」  
田附 希恵さん  
(女子美術大学大学院)



「水面」  
植松 美月さん  
(日本大学)



「拡張と破壊」  
飯塚 七海さん  
(日本大学大学院)



「竜」  
小林 源弥さん  
(日本大学)



「あの頃の思い出」  
羽鳥 真早雄さん  
(多摩美術大学大学院)



後列左から、  
田附さん、羽鳥さん、  
植松さん、小林さん、  
飯塚さん

前列左から  
鞍掛日本大学教授、  
大槻日本大学教授、  
市橋常務理事、  
村井多摩美術大学教授、  
平戸女子美術大学教授